

ともに生きる

No.4



ご挨拶

後援会長

小谷 忍

早いもので、もう今年の締めくくりの月となりました。御父兄の皆様、お変わりなく過ごされていることと思います。季節の移り変わりも日々厳しさを増してまいりました。大学におきましても、社会の厳しさを感じ学生への指導に力を注いで頂いていることでしょう。

先日、「テクノエイドみらい館」の開館記念行事に御招待を受け参加させて頂きました。私自身、この「テクノエイドみらい館」については仕事柄とても興味を持っておりましたので、最新の福祉機器を間近で見学することができたいへんすばらしい経験ができました。もし自分の体が不自由になったなら、使ってみたくなるような福祉用具の数々が展示されています。是非、会員の皆様にも来館していただきたいと思います。

今年度3名の新役員の皆様をお迎えし、後援会役員数も13名となりました。私事ですが後援会長職も今年で3年目を迎え来年3月末にて任期満了の予定です。近畿福祉大学の更なる発展を祈念し次期会長にバトンを手渡したいと思っております。今後とも会員様のご支援、ご協力賜りますよう、お願ひ申し上げます。

最後に、今後私たちが高齢者になり、介護を受けるころ安心で安楽な福祉社会になりますように、近畿福祉大学がそんな社会で活躍できる人材を送り出せる福祉のメッカになりますことを期待しています。

1

テクノエイドみらい館を見学して



後援会監事

宮辻 ルミ

10月中旬テクノエイドみらい館開館行事に参加させていただきました。澤村誠志先生による「地域リハビリテーションの現状と展望」と題した講演を拝聴後、テクノエイドみらい館の概要を聞き見学することになりました。

テクノエイドみらい館は、大学の正門を入って右手に位置し、ドームの形をした屋根、全体がグレイ色、壁面は透明の窓ガラスと、その外観は未来をイメージさせるものでした。

円形の室内には車イスや入浴用リフト、ベッド、食事の補助器具など新しいスタイルの福祉用具が展示されています。色あざやかな杖やジョギング用車イス、車イスが装着された自転車もありました。

日常生活の中でこのような用具を身近に感じていない私は、どのように便利なのか、想像するぐらいしかできません。けれど、大腿骨骨折後歩行に不安を持ち始めた母親がいます。また交通事故や病気など現代社会において老若男女いつ誰が必要となるかわかりません。そんな時このテクノエイドみらい館は大きな味方となってくれるのではないかでしょうか。

教育、伝達、交流、工夫、探求という5つのコンセプトをもつテクノエイドみらい館。ここへ来たら自分に必要な用具がある。自分にあった用具を提案してもらえる。そういう場であろうと思いました。

たんに業者のPRに終わらせないでほしい。

学生が触れて学び、地域の人が気軽に出入りし、業者がいろいろな意見を取り入れ創意工夫し人々に本当に必要な福祉用具を置く。そんな新鮮な空気がいつも流れているような所になってほしいと期待します。



「社会福祉士国家試験対策」について

社会福祉学科 教授
豊山 大和

本学における「社会福祉士」国家試験の受験対策は、実習や就職対策も兼ねた方法で行われています。

具体的には、先ず2年次で「社会福祉士総合試験Ⅰ」を実施しました。これは『まるごと覚える社会福祉士試験』から出題して、60点以上の合格点に到達しなければ実習にいけません。そのため、早い時期からこつこつと頑張っていた学生もかなり見受けられました。

また、3年次では今年12月末に「社会福祉士総合試験Ⅱ」を実施する予定です。これは『社会福祉士受験ワークブック』の専門科目と共に通科編の2冊及び『社会福祉士国家試験予想問題集』から精選された120問が提出されます。学生は、「総合試験Ⅰ」以上に早くから取り組んでいましたが、試験が近づくにつれて、目の色が変わってきており、大変いい刺激になっているようです。そこで今年は、勉強したい学生のために、12月20日から23日までの4日間、毎日午前9時から午後5時40分まで「総合試験Ⅱに向けての特別講座」の開講を予定しています。

本学で「総合試験Ⅰ、Ⅱ」を特設した理由は、大学生にふさわしい福祉全般についての専門知識を身につけていないと、実習の効果を十分にあげることができないのみでなく、実習後すぐにも始まる就職試験で、苦戦を強いられることが予想されるからです。また「総合試験Ⅰ、Ⅱ」をしっかり勉強することによって、4年次から本格的に始まる「社会福祉士国家試験受験対策」の成果が期待できるからです。

さらに4年次では4月早々から学内模試や全国模試を毎月のように実施するほか、前期では本学独自の特設科目「社会福祉学基礎演習Ⅰ」、「社会福祉学基礎演習Ⅱ」及び「社会福祉学特別演習」の中で、受験に必要な13科目すべての総復習をする予定です。また夏季から後期、さらに国家試験直前まで外部から社会福祉士国家試験受験指導の専門家も含めて、特別講座を開講する予定にしています。

このように、本学の社会福祉士国家試験受験対策は、他大学に勝るとも劣らないものと思います。しかし、一番大切なことは学生が、どれだけ真剣に受験勉強に取り組むかということです。

保護者の皆様におかれましても、ご子息、ご息女様が受験勉強に専念できるようにご配慮いただきたく、切にお願いする次第であります。

『社会福祉士国家試験全員合格を目指して頑張ろう』

平成16年1月末に、本学1期生のみなさんは社会福祉士国家試験を受験します。近畿福祉大学では、国家試験に向けて国家試験受験対策等、全学を挙げて対応していかたいと考えています。

ホームヘルパー1級

訪問介護員養成研修（1級課程）26名の学生
が修了しました。

訪問介護員養成研修（1級課程）

修了証書授与式



テクノエイドみらい館オープン記念行事



「テクノエイドみらい館」開館に際して

福祉産業学科学科長

近藤 明博

今秋、関係各方面の方々の多大なご援助、ご協力を得て「テクノエイドみらい館」を開館することができました。大学の正門を入って右手に見える巨大なガラスドームの建物で当大学のランドマークとなっています。ドームの1階は床面積630m²で、生活支援ゾーン、健康支援ゾーン、楽しむゾーンと三つのゾーンに分けて最新の福祉、介護、健康支援等の機器、器具が展示され試用出来るようになっております。また各種会合の開催もでき、福祉関連情報も得られるようになっています。

高齢化社会の到来ということで、福祉系大学、福祉系学科の設置、増設が続いているが、このような施設を備えた大学は今のところなく本学独自のものであります。

テクノエイドみらい館は福祉用具に関する情報提供と技術伝達の研修センターとして、教育の場、伝達の場、交流の場、工夫の場、探求の場を提供しようとするものであります。教育の場とは学生が福祉用具とその活用法について体験的に学ぶ場であります。伝達の場とは福祉用具を実際の生活に生かすための技術を伝達する講習会を開催いたします。交流の場とは近隣地域の住民、学生、教師、ユーザー、施設職員、企業の開発者が集い、情報や意見を交換できます。工夫の場とは福祉用具を身体能力や目的に合わせて調整、加工し、必要に応じて工作工房で製作することができます。探求の場とは将来の福祉産業への可能性を探求する場を提供するものであります。

以上のような考えのもとに開館されたテクノエイドみらい館ですが、ようやく入れ物が出来た段階で、近畿福祉大学には立派なテクノエイドみらい館があると言われるようになるためには、運営システム、ソフト面の充実がこれからのが課題であります。これを解決することにより地域に開かれた大学、福祉関連情報発信基地となる大学、社会に役立つ大学、福祉関連ビジネスの企業家を生む大学に育っていくものと確信しております。

高齢者や障害のある方ならびに小さな子供たちのみならず、全ての人々にとってのよりよい生活支援、さらには生活を楽しむことを追及し得る施設に育てていきたいと考えていますので、今後とも皆様方のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

平成14年10月18日
テクノエイドみらい館がオープンしました



左から姫野学生部長代行・大羽学部長・小谷後援会長・宮辻監事



一 質 問 内 容 一

- | | |
|-------------|----------|
| 1. 氏名 | 4. サークル名 |
| 2. クラス | 5. 趣味・特技 |
| 3. 専門(担当教科) | 6. 好きな言葉 |



1. 奥野 茂夫
2. a
3. 心理学
5. 旅行
6. 一期一会



1. 梅谷 進康
2. c
3. 社会福祉援助技術実習
指導演習
4. レスリングサークル
5. スポーツ観戦・読書
6. challenge creation
communication



1. 井上 美智子
2. a
3. 生物学
4. 園芸療法研究会・フットサル



1. 水垣 渉
2. d
3. 倫理学
5. 虫を観ること
6. 求めよ、さらば与えられん



1. 高尾 由子
2. b
3. 哲学
4. 女子テニス



1. 三宮 敦生
2. d
3. 心理学
4. 劇団部
5. 読書・旅行
6. 現在に生きる



1. 武内 信子
2. c
3. カウンセリング論
4. 卓球サークル
5. 空を見ること・合唱
6. 小さな親切運動



1. 井土 瞳雄
2. d
3. 実習指導演習
4. スマート
5. 作詞・歌・スポーツ全般
6. 雑巾は他の汚れを一生懸命拭いて自分は汚れにまみれいる



1. 堤 俊彦
2. c
3. スポーツ運動心理学
4. 硬式テニス部・HCP(ヒューマンケア心理学)研究会
5. テニス・研究活動
6. 生き急ぐほどの世ならじ茶の花のおくれ咲きなる白きほろほろ



1. 千代丸 信一
2. e
3. リハビリテーション論
4. 弓道サークル
5. ゴルフ・囲碁・麻雀・読書・散歩
6. 自助努力

副担任



1. 中村 陽子
2. e
3. 形態別介護技術演習
5. 食べること
6. よき人との出会いは華である



1. 佐竹 利文
2. h
3. 外国史
4. 女子サッカー部
5. スポーツ観戦・魚釣り（子供と一緒に）



1. 能田 茂代
2. f
3. 介護技術演習・実習指導
5. 推理小説・T Vで、いかに早く犯人を当てるかチャレンジすること
6. 夢



1. 貝原 洋二
2. i
3. 英語
5. 小旅行先での読書
6. 習慣



1. 元永 恵子
2. f
3. 家政学実習
4. 料理サークル
5. 学生とお話しすること
6. 信頼



1. 仲渡 一美
 2. i
 3. イギリス現代史
 4. 柔道部
 5. フラワーアレンジメント
 6. No profit grows where is no pleasure ta'en.
楽しんでやらなきゃ、何事も身につかない。
- (シェイクスピア)



1. 相良 憲一
2. g
3. ドイツ語
4. ソフトテニス部
5. 読書・音楽鑑賞・水泳
6. ゲーテ『人は知っているものしか見ない』



1. 阪上 健一
2. j
3. 英語
4. 硬式野球
5. 切手収集
6. 日進月歩・医食同源



1. 中島 友子
2. g
3. 英語
4. 書道部
5. 書道・詩
6. 大丈夫



1. 足立 泰紀
2. j
3. 経済学・日本史
4. 男子バスケットボール部
5. ワールドミュージックを聴く山歩き
6. Cool head, Warm heart. (A. Marshall)



兵庫県大学洋上セミナー



「大学洋上セミナーひょうご2002」に参加して

社会福祉学科 助手
川下 維信

「大学洋上セミナーひょうご」は兵庫県内の4年制大学の学生が、船上で講義を受けながら、30日間かけてアジア・太平洋諸国を訪問する洋上大学で、今回で12回目となります。今回の寄港地は中国（広州）、シンガポール、オーストラリア（パース）、インドネシア（バリ）の4カ国でした。本学は今回が初参加で、3年生の4名の学生が参加し、生活部スタッフ（行程中の学生生活のサポートをする職員）として私が派遣されました。

船内での生活は、まるで「動くホテル」といった感じで、天候によっては多少揺れるものの陸上と変わらない快適な生活を送ることができました（毎日のベッドメイクや豪華な食事など、セミナーの主旨からすれば贅沢過ぎる感じもしましたが…）。

学生は、昼間は講義、夜間はイベントやミーティングと、休む間もないほど忙しく活動しており、ある学生の言葉を借りれば「毎日が学園祭」状態の30日間でした。船には寄港地の学生も乗船しており、言語・宗教・文化の異なる人々と一緒に生活することで、日本では感じる

ことのできない世界を経験していたように思います。また寄港地でも、現地の大学を訪問したり、逆に現地大学・行政関係者や学生を船に招待して交流会を催したりと、普通の観光ツアーでは得られない体験もすることができました。

生活部スタッフの私はというと、安否確認、備品の貸出、委員会活動支援、健康管理、遺失物管理など、学生生活にまつわる様々な業務に日々追われていましたが、普段の大学での仕事以上に学生と関わることができたことはとても有意義でした。学生たちと本音で話し、一緒に悩んだりする中で、忘れかけていた学生の頃の気持ちを取り戻すことができたような気がします。

最後に、近畿福祉大学から参加した学生についてですが、日々の挨拶など礼儀がきちんとされているのはもちろん、責任感、積極性などすべての面でしっかりしており、これまでの学びの深さを感じました。一教員としてとても誇らしい思いです。



町田 沙織 (介護福祉学科3年)

海に囲まれた1ヶ月間は、まるで夢を見ているかのような世界でした。心に響く感動の毎日で、私という一人の人間を大きく教えてくれました。船で4ヶ国を巡りながら五感を使って異文化交流をしたり、すべての時間を共に過ごし支えあってきた熱い仲間ができました。この1ヶ月で得たすべてのことを、これから的人生に十分活かしていくたいです。

益田 佐和 (介護福祉学科3年)

船上での講義は、自分の大学での専門分野の講義とは違うものだったので、他大学に通っているようで、とても新鮮でした。そして、私にとって異文化交流は魅力的で楽しいものでした。今まであまり関心を持ったことがなかったので、こんなに興味を持ちもっと理解したいという思いが自分の中に生まれたことが、とても嬉しかったです。船を行ったからこそ味わえた気持ちがたくさんあり、本当に充実した30日間を過ごせました。

望月 真澄 (介護福祉学科3年)

1ヶ月にわたる洋上セミナーから無事帰国し、今は参画に同意してくれた家族やバックアップしてくださった皆さん、そして兵庫県民の皆様方に心から感謝の気持ちでいっぱいです。学生時代にこのようなチャンスに恵まれ、将来に向けて大変有意義な経験ができたことは私にとって大きなプラスとなり、日常では環境問題や世界情勢に対する関心度が高まった今日この頃です。また、洋上で知り合った友人たちの、自分にない価値観に触発されたことで、新たな自分発見と自信をつける良い機会となりました。

石井 健児 (社会福祉学科3年)

洋上で得られたもの - それはたくさんあります。多くの仲間、国際交流の大切さ、異文化交流等…。日本に帰国してから、洋上で仲間と過ごした日々を思いださない日はありません。一番私の中で得られた具体的なものとしては、日本に帰国してからいろんな勉強が楽しくなったことです。何よりも英語の勉強が楽しくて今すぐにでも海外に行きたいと思うほどです。私には将来、外国で働きたいという夢があります。洋上は、その夢への決意をさらに高めてくれる経験となりました。

姉 友 戦



左より霜田君（本学生）・佐々倉事務局長・
鷲田福崎町長・正壽君（本学生）

播 彩 祭

播彩祭実行委員長 岡 田 愛（社会福祉学科3年）

今年度で、近畿福祉大学は開学3年目を迎え、それと同時に学園祭も3度目を迎えました。本学では、第3回播彩祭（ばんざいさい）を10月26日（土）・27日（日）に『Always Smile』というテーマのもと無事に終了いたしました。

『播州を彩る祭り』という意味が込められた播彩祭では、今回、『いつも笑顔でいたい』という意味が込められたテーマが付けられました。

今年は、地域に根付いた学園祭をより深くしようと思い、様々な工夫をこらしてみました。特に、3年目を迎えて、近隣にある施設の方々との交流も深くなり、今年新たに、施設・作業所の利用者さんが作ったものを売るという『福祉施設の特産品フェア』を企画しました。福祉関係特別企画として、『瑞宝太鼓』という、知的障害を持った人々で構成されているグループの公演もありました。また、共同発表会など地域の方々とのふれあいの企画を増やしました。ご来場いただいた方からは、ご好評をいただき、来年につながればと思います。

また、当日の模擬店の店舗数は約40店舗、フリーマーケットは約30ブースとなり、年々規模が大きくなってきたと同時にたくさんの方にご来場いただき、また、企画に参加していただき、本当に嬉しく思っております。

最後になりましたが、『第3回播彩祭』を終えて、様々な壁がありましたが、無事に終了することができ、地域の方々、教職員の皆様、学生の皆さん、その他播彩祭を創りあげるためにお世話になった方々、皆様に深く御礼申し上げます。



オープニング風景



播彩祭実行委員のみなさん



平成 14 年度 サークル活動概要報告

スポーツセクション

硬式野球部	近畿学生野球連盟3部 春・秋季リーグ 優勝
軟式野球部	近畿学生野球連盟2部 秋季リーグ 優勝
柔道部	兵庫県学生柔道大会2部 優勝 1部 昇格
硬式テニス部（男子）	夏季関西学生テニス選手権
ソフトテニス部（男子）	関西学生ソフトテニス春季リーグ戦 優勝 8部 昇格
バレー部（男子）	関西大学バレー部連盟7部秋季リーグ 準優勝 6部 昇格
バレー部（女子）	関西大学バレー部連盟3部秋季リーグ 6位
サッカー部（男子）	平成15年度より学連加盟予定
バスケットボール部（男子）	関西大学バスケットボール秋季リーグ4部 15位
フットサル部	地域大会に参加

カルチャーセクション

ボランティア21	特別養護老人ホームでのお祭補助 テクノエイド研究会と合同で車いすマップの作成
ボランティアわかば	インドストリートチルドレンとの交流 介護老人保健施設などへの定期的なボランティア活動
ハッピークローバー	学園祭に施設の利用者さんを招待 地元小学校の児童や幼稚園児とのふれあい
レクリエーションサークル	知的障害者や自閉症の子供達とのふれあい 介護老人施設でレクリエーション支援
テクノエイド研究会	ふれあいゲートボールなどに参加 テクノエイドみらい館開館行事補助・福祉機器の展示作成
障害者サークル	施設での作業手伝いなど
園芸療法研究会	園芸福祉全国大会 INながさきに参加 園芸療法を取り入れている施設でのボランティア活動
演劇部劇団青空	学園祭で作品発表 定期的にコンサートを開催
軽音楽部	学園祭で作品発表
写真部	学園祭で作品発表
書道サークル	学園祭でお茶会を開催
茶道サークル	



岡山吉備高原車いす
ふれあいロードレースボランティア参加

訃報

開学当初からご尽力いただきました下記3名の先生方が急逝されました。
謹んでお悔やみ申し上げます。

- 田口 善弘（福祉産業学科 教授）
平成14年6月1日（享年69歳）
- 木村 俊彦（社会福祉学科 講師）
平成14年7月4日（享年54歳）
- スティーブン・ロバーソン
(福祉産業学科 非常勤講師)
平成14年4月15日（享年49歳）

お便りコーナー

事務局では会員の皆様からの「もっとこういうことが知りたい」などのご意見、お便りをお待ちしております。またインターネットや携帯電話をご利用のうえ下記E-mailアドレスに送信いただいても結構です。どうぞよろしくお願ひします。

発行日：2002年12月1日
発行：近畿福祉大学後援会
事務局 学生部
〒679-2217 兵庫県神崎郡福崎町高岡1966-5
TEL (0790) 22-2528
FAX (0790) 22-6941
E-mail:gakuseibu@kinwu.ac.jp